

令和六年十月 晋賢光明

華嚴宗 晋賢光明寺

今月の法話

一、「私たちはなぜこの世に生きるのでしょうか？」

二、「藤原氏と仏教 現代に生きる私達へ」

一、私たちはなぜこの世に生きるのでしょうか？

私たちは何をするためにこの世に生まれてきたのでしょうか？ ほとんどの人が疑問に思うことでしょう。なぜなら、この世には不平等が満ちあふれており、不満の種が多いからです。さらに、自分勝手な人が多く、気づけば自分もその一人になっていることがあります。そして、人は生まれ変わり、死に変わり、輪廻転生を繰り返します。疑問を持ちながらも、この世に生きる私たちの目的は、魂の浄化と悟りです。

私たちの魂は永遠に不滅であるといわれていますが、それは誤りです。魂は無限ではなく有限だからです。ここでいう魂とは、人間の心そのものです。人は輪廻転生を繰り返しますが、過去世の記憶を持つ人はほとんどおらず、無意識の中で業として廻り、少しずつ変化して進化していきます。人類は歴史的に進化し、心の安定と豊かさを、そして悟りに向かっているのです。もちろん、これを証明せよと言われても、できる人は少ないでしょうが、中には前世を覚えている人もいます。私もその一人です。

さて、私たちはこの世の苦行を通じて魂を磨き育てるために、生まれ変わり死に変わりしています。それが人の業なのです。業とは人が持つ宿命です。この世は「四苦八苦」の世界ですが、楽しみもあります。仏は苦しみを少しでも和らげるためにお釈迦様を遣わし、八正道の教えを私たち衆生に伝えてくださったのです。物事の受け取り方や考え方によって、正しい道から外れてしまうこともあります。何かを他人のせいに行ったり、悪口を言ったり、否定したり、人にマウントを取ったりするなど、不満の連続で直ぐに怒りを爆発させてしまうのは大きな問題であり、修行が不足している証拠でしょう。四苦八苦のほとんどは人間関係に起因しており、その悩みは約八割が人間関係に関連するといわれています。田舎に一人暮らしをしても、人と関わりを持つことは避けられません。しかし、その中には霊的な問題や魔的な存在もあるでしょう。どのような魔も元をたどれば、人間の心です。

負の因縁を遠ざけ、良い縁により救われる教えに「無財の七施」があります。その中でも、心施、身施、和顔施、言辞施は非常に強力な力を持っています。あとは、人を許す心と、詫びる心です。仏教では、女性が成仏しにくいといわれています。すべてがそうではありませんが、過去の出来事に執着し、男性に比べて忘れず、悔しいことや悪いことを記憶にとどめて許さないことが多いからです。

また、復讐心が芽生えたと、それが死後も残り、怨霊になりやすいのです。しかし、人はすべて女性から生まれてきます。ゆえに、女性のカルマは男性よりも強くなるのかもしれない。女性の成仏は悟りの最大のテーマの一つです。それだけに、女性の力はこの世を変え、進化させる力を持っていることも事実です。男性と女性がうまく噛み合えば、悟りへの道も大きく開かれることでしょう。この話は性別の話ではなく、心の男女を示しています。

最後に一言アドバースです。言霊の力は言辞施の力です。特に日本語は、言霊の力が非常に強い言語です。大切にしてください。新しい言葉には言霊はありません。たとえば、「ありがとうございます」は最も強い言葉です。一方で英語や流行語には力は有りません。

常にイライラして八つ当たりしたり、暴言を吐いたりしていると、日頃はおとなしくてもすべてを無にします。また、お金の神様に見放される人は、社会や他人のせいにして「ダメ」「無理」と言って逃げたり、否定的になったりします。「自信がないから」と暗くなったり、考えずにヘラヘラして無駄話をしたりするのもよくありません。

二、藤原氏と仏教

なぜ、奈良にしか不空羅索観音はいらっしゃらないのか。小さい作例はあれど、大きな仏像を彫り、本尊として安置するお寺はあまりに少ない。現存する不空羅索観音像で有名なものは奈良では三月堂、興福寺南円堂、不空院、大安寺など。あとは太宰府の観世音寺だろうか。これほどまでに作例が少ないことには藤原氏が関係しているのではないかと囁かれています。

奈良時代に不空羅索観音が信仰されたことはいくつかの資料でも確認されているが、この頃から藤原氏との関係を見ることが出来る。まず三月堂の不空羅索観音は聖武天皇と光明皇后の息子である基親王の菩提を

弔うために造立された。聖武天皇の祖父と光明皇后の父は藤原不比等であるから基親王は藤原一族のサラブレッドと言えるだろう。

興福寺南円堂の本尊である不空羅索観音坐像は鎌倉時代の運慶の父である康慶一門の作であるが、これは平安時代に平重衡による南都焼討で本尊がお堂ごと焼失したためである。初代の御本尊は藤原四兄弟の次男で藤原北家の祖とされる藤原房前の追善のために息子の藤原真楯らが造立したものとされる。

不空羅索観音は藤原氏の守り本尊として知られるが、これには不空羅索観音のご利益にその理由がある。先月の法話で不空羅索観音のご利益の最たるものは滅罪であると申し上げたが、かれらにとってそれ以上に重要なご利益が観音様にはあったのだ。

「上に人を置かない」つまり、この世の頂点に位置するとされるのだ。まさに天皇の後ろ盾となり、国家を牛耳ることに成功した藤原氏にとってうってつけのご利益である。政治家の闘争ははるか昔から変わらず残り続けているものだ。

しかし、そんなこの世の王を生み出すようなご利益があるのだろうか。実のところ、これはすべての人が平等という意味の方便である。誰しもが平等であれば、誰も上に立つことなどないのだから。また、不空羅索観音が無上の神変力を持ち私達をそのレベルまで慈悲の羅索を持って引き上げてくださる。そして、その羅索は蜘蛛の糸のような細い糸ではなく、すべてを逃すことのない「不空」の「羅索」であるのだ。

一方で平安時代になると藤原氏は違う仏への信仰を強くした。それは阿弥陀如来である。平等院にある鳳凰堂には藤原道長の子である藤原頼通が造立させた金色の阿弥陀如来が座している。当時の貴族は浄土教による来世への救済を求めたとされる。彼らは末法(仏の教えの潰えた世界)へと至るこの世に見切りをつけて、阿弥陀如来の浄土に希望を見出したのだ。

実のところ、この動きは現代にも通じるものがある。世界一の富豪であるイーロン・マスクは火星への移住を本気で考えているという。何を馬鹿なことかと思われたことだろう。しかし、他の億万長者たちはこの気候変動やパンデミックから大切なことを学んだ。それは、「問題を解決する」のではなく、「問題から自分を切り離して自身の財産を守らねばならない」ということだ。

これこそが藤原氏の浄土信仰と同じ論理ではなからうか。末法の世となった現世に見切りをつけて、現実をどうにか良い方向へと変えるような慈悲心を持つことは全くせず自身の極楽往生のために金色の阿彌陀佛を作ったのだ。これは奈良の大仏とは全く反対の事業であることは言うまでもない。自身の徳の少なさを反省し、衆生と国土の安穩を祈り大仏造立を發願した聖武天皇には、その慈悲心と責任感があったからこそ行基は力を貸したのではないだろうかと思像する。

政治家などの人の上に立つ者にとって仏教的な振る舞いはとても重要である。身を切る改革とはよく言ったものだが、それだけでは片手落ちなのだ。その理想には自身の利益を超えた利他の先にある自身(すべての衆生)の利益。全員が豊かで幸せな社会を作る。きれいごとのように聞こえるかもしれないが、それこそが本来の世界の形であり、仏教の目指す世界の姿である。そのことを心して励むことこそ仏の修行である。

合掌

南無日光妙法蓮華經

*十月のラッキーカー、暗剣殺、五黄殺(十月九日〜十一月七日) ※一年通してのラッキーカーは白色です。
*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増築や旅行など控えた方が良い方位となります。

十月のラッキーカー 金 白 緑 暗剣殺 北西 五黄殺 東南

【お知らせ】

- ① 小田原観音祭 十月二十七日 正午より (終了後、二時より勉強会) 参加希望の方はご連絡くださいませ。
- ② 十一月の勉強会の日程：普賢光明寺(鎌倉) 十一月二日(土) 三日(日) 五日(火) 正午時より
横須賀支部 十一月十七日(日) 小田原支部 十一月二十四日(日) 午後二時より
- ③ 仏像彫刻教室 十一月十七日(日) 正午より 絵画教室 十一月三日(日) 勉強会終了後
- ④ 滝行予定：●十月十三日(日) 塩川滝 午前七時集合 ●十月二十七日(日) 夕日の滝 午前六時集合
●十一月十日(日) 塩川滝 午前七時集合 ●十一月二十四日(日) 夕日の滝 午前七時集合
- ⑤ 大山参拝登山：十一月二十三日(土・祝) 詳細は別紙にてご確認ください。
- ⑥ 本年の煤払いは十二月一日(日) 午前八時より予定しております。お忙しいと存じますが、観音様の住まわれる本堂を清浄とし、ご一緒に心の煤も払ってください。昼食のお弁当をご用意いたします。
- ⑦ 愛染明王護摩供を十一月十日(日) 十二時半より厳修いたします。詳しくは別紙をお読みください。
- ⑧ 令和七年 個人別年間霊視の受付中です。